

# 平塚市埋蔵文化財速報展



真田・北金目遺跡群 縄文時代の水場遺構 現地見学会（平成 14 年 5 月 6 日）

平塚市内で実施されている埋蔵文化財の発掘調査では、平成 12 年度に開催した「近年出土の考古資料」以降も大きな成果を上げています。今回の展示では最近の出土資料を展示・公開するほか、記念行事「平塚市遺跡発表会」において発掘調査の様様をスライドとともに紹介します。また期間中の 2 回、職員による展示解説を予定しています。

**展 示** 平成15年 5月17日(土)～6月8日(日)会場：特別展示室

展示解説 5月18日(日) 13:30～14:00

5月24日(土) 13:30～14:00

遺跡発表会 6月1日(日) 13:00～16:30 会場：講堂

「平塚市埋蔵文化財速報展」では、真田・北金目遺跡群、万田貝塚、湘南新道関連遺跡群など、平成12年度以降に発掘調査されたものを中心に、平塚市内で出土した考古資料を展示・公開します。

## 真田・北金目遺跡群

市内の北金目台地では真田・北金目地区区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査が続けられています。平成14年に事業区域の西端で縄文時代の水場遺構が発見され、報道されたのは記憶に新しいところです。縄文土器片やトチをはじめとするドングリ類の殻が多く出土していることから、「水場」あるいは「浄水施設」として利用していたと考えられます。西側に隣接する王子ノ台遺跡（東海大学構内）では同じ時期の集落が確認されており、「集落」と「水場」の関係をうかがうことができる資料です。史料展では東海大学の協力により、集落内の資料と水場の資料を一同に公開できることになりました。

弥生時代末期の方形周溝墓群、奈良・平安時代の集落などの資料も目白押しです。



縄文時代の土偶の顔（真田・北金目遺跡群 水場遺構出土）

## 万田貝塚

万田貝塚は平塚市内で最も早くから認識されていた遺跡の一つです。大正14年には道路工事中に貝や土器が出土しました。調査の結果、「我邦先史考古学のクロノロジー（年代学）樹立に確実な一資料を得た」と評されましたが、その後貝塚は既に消滅したとされ、「幻の貝塚」と言われてきました。しかし、平成12年下水道建設に伴う試掘の際、道路面の下1.5mで貝層を発見、貝塚の存在が確認されました。工事は工法を変更し、貝塚は保存されました。

そして平成15年2月から3月にかけて、貝塚の広がりを確認するための試掘調査が実施され、多くの土器や貝殻、獣骨が出土しました。一つ一つの資料の分析については今後に期待がかかりますが、今回は発掘されたままの資料をご覧ください。



万田貝塚の試掘状況

## 湘南新道関連遺跡群

四之宮地区の湘南新道予定地では平成12年度以降発掘調査が続けられています。道路のルートは相模国府域と推定される地区の中央を東西に貫いていますから、発掘調査では古代（奈良時代から平安時代）の国府集落の様相を示す資料が多く出土しています。

## 平塚市遺跡発表会

平塚市文化財保護委員を務める近藤英夫氏（東海大学教授）による記念講演「市民と文化財」を予定しています。さらに、調査の担当者による遺跡の解説を行います。史料展で公開した資料とその発掘調査の様子を中心に、スライド等を用いて解説します。申し込み、参加費は必要ありません。

## 展示解説

平塚市の学芸員による展示の解説を行います。申し込み、参加費は必要ありません。